

## 選択的帝王切開術の至適時期の検討

### 1. 研究の対象

2008年1月1日から2017年7月31日までの妊娠37、38週に予定し帝王切開施行した方

### 2. 研究目的・方法

帝王切開は経膈分娩と比べ新生児呼吸障害発生が多く、週数が進むと呼吸障害が少なくなるとされています。選択的帝王切開は欧米では39週以降が勧められておりますが、日本での報告は少ないです。選択的帝王切開での分娩転帰、新生児予後を明らかにして、37、38週での選択的帝王切開術が妥当か検討することを目的としました。

我々は、2008年1月1日から2018年8月31日までの間、当院において、37、38週台に選択的帝王切開を定めた症例に関して分娩転帰を比較することで、選択的帝王切開術の分娩時期についてさらにより良い分娩に繋げることができます。分娩時の評価項目としては、急速遂娩の施行率・分娩時出血量・児の状態等です。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、分娩記録、カルテ番号 等

試料：血液検体、病理検体

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

防衛医科大学校 産科婦人科学講座  
〒359-8513 埼玉県所沢市並木3-2  
電話：04-2995-1511（内線2363）

FAX：04-2996-5213

研究責任者：講師 宮本守員